

◎ 美術館情報

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの美術館等で、臨時休館やイベントの休止、展覧会の中止や開催期間の変更、および入館方法等が変更になっています。

状況が日々変動しているため、各施設の公式ホームページなどで最新の情報をご確認ください。

1. 滋賀県陶芸の森 陶芸館【滋賀・甲賀】 (<https://www.sccp.jp/exhibitions/15940/>)

3月11日(土)～6月25日(日)

企画展:湯呑茶碗 ～日本人がこよなく愛したやきもの～

湯呑茶碗は日本人に最も親しみのある「やきもの」です。家庭や職場など生活のさまざまな場面で用いられる、個人用の湯呑茶碗や夫婦茶碗の存在は、日本独特の器文化といえるでしょう。とくに明治時代末期から昭和時代前期には、日本人が最もやきものに親しんだ時代です。日本各地の名所や名物を、多彩な技法や技術を用いて表現した、その小さな器には当時の名工や作家の技とこだわりが凝縮されています。本展では、陶芸の森「坂口恭逸湯呑コレクション」から日本人がこよなく愛した湯呑茶碗の魅力を紹介します。

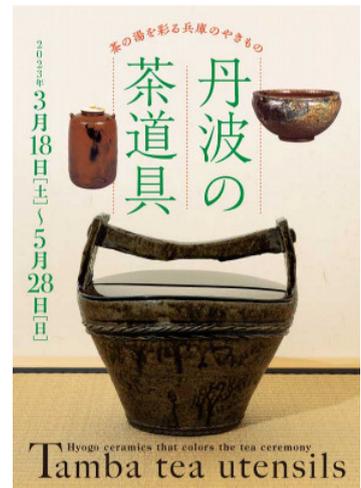


2. 兵庫陶芸美術館【兵庫・丹波】 (<https://www.mcart.jp/exhibition/e3404/>)

3月18日(土)～5月28日(日)

特別展:丹波の茶道具 茶の湯を彩る兵庫のやきもの

近世をむかえると、他の産地と同様に丹波でも茶道具を作り始めます。本展では、各時代の茶人に受け継がれ、愛蔵されてきた丹波の茶道具の魅力に迫ります。加えて、茶室の空間を再現し、県内の窯場で焼かれたさまざまな道具を取り合わせて、茶の湯の世界の一端を紹介します。



3. 泉屋博古館東京【東京・六本木】

(https://sen-oku.or.jp/program/20230318_moco101/)

3月18日(土)～5月21日(日)

特別展:大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選 101



世界有数の東洋陶磁の名品を所蔵する大阪市立東洋陶磁美術館。そのコレクションの中核が「安宅コレクション」です。安宅産業株式会社の会長であった安宅英一氏（あたく・えいいち:1901～1994）が、会社の事業の一環として1951年から25年かけて収集した961件もの名品の数々。その全てを選び抜いた安宅氏の眼は、決して従来の価値観に縛られることのない、ただそこに存在する美を見極めようとするものでした。ところが、安宅産業の経営破綻によってコレクションは

散逸の危機を迎えます。世界に類を見ない貴重なコレクションの行方が案じられる中、大阪を同じく本拠とする住友グループが大阪市に寄贈、美術館の建設に寄与しました。コレクションが安住の地を得て40周年を迎えたことを記念し、「安宅コレクション」から国宝2件、重文11件を含む珠玉の101件を紹介します。

4. 多治見市美濃焼ミュージアム【岐阜・多治見】(https://www.tajimi-bunka.or.jp/minoyaki_museum/)

・ 2月25日(土)～4月23日(日)

企画展: 第2回 全国やきもの甲子園 入賞作品展

1300年の歴史を刻んできた美濃焼の産地・岐阜県多治見市を舞台に、令和4年の秋冬、高校生たちのやきものコンテストが開催されました。第2回目となる今回は「○○○の(な)形」をテーマに、北は北海道から南は沖縄まで全国各地から273点もの作品がエントリーされました。そこからは、作り手の生きる地の風土や、制作へ突き動かす動機付けがありありと感じられます。やきものに魅せられ青春をかける若き高校生たちの作品のうち、入賞・入選作品を展示します。やきものの将来を担う若い世代の作品をご覧ください。

・ 3月11日(土)～12月24日(日)

企画展: 明治・西浦焼の世界

明治時代、西浦焼は一つのブランドとして多くは欧米向けの輸出品として販売されました。本展覧会は国内では作品がほとんど残されておらず、幻のやきものとなった西浦焼を多治見市内で継続的に観覧できるよう企画しました。明治政府は殖産興業を推進し、万国博覧会に美術品を出品することを奨励していました。ここで日本の技術者は、アメリカのルックウッド社の製品など当時世界をリードしていた、それまでの日本にはなかった美しいやきものを目の当たりにします。西浦圓治(にしうらえんじ)もその中の一人です。「西浦焼」とは土岐郡多治見町(現多治見市)を中心に、明治初期より三代から五代西浦圓治のもとで製作されたやきもののことをいいます。なかでも五代西浦圓治が明治30年代から44年にかけて製作した、釉下彩と呼ばれる作品が広く知られています。釉下彩(ゆうかさい)とは、透明釉の下に多彩な色によって絵や文様を施す技法です。釉薬の下で発色するため上絵具などははっきりとした色合いに比べて柔らかな雰囲気が特徴です。さらに図柄・形状についても、明治後期にヨーロッパで流行したアール・ヌーヴォー様式を採り入れているものが多く、世界的に見ても時代の先端をいく陶磁器でした。本展では明治時代に作られた西浦焼・釉下彩の作品を中心に、同時代の国内外の作品をあわせて展覧いたします。



開館時間: 9時～17時(入館は16時30分まで)

休館日: 月曜日(祝日の場合は翌平日休み)

観覧料: 一般 320円(260円)、大学生 210円(150円)、()内は団体料金(20名様以上)
※高校生以下、障害者手帳の交付を受けている方とその付添いの方1名は無料

連絡先: 多治見市美濃焼ミュージアム

岐阜県多治見市東町1-9-27

電話: 0572-23-1191 FAX: 0572-23-4538

E-Mail: minoyaki@tajimi-bunka.or.jp